

磐城水産新報

毎月十、廿、卅日発行
定価一紙十錢
廣告料十二字一
行五十錢
印刷所 隆次
編輯人 伊藤 隆次
發行所 小名濱町
磐城水産新報社

磐城銀行休業問題

預金者大會

小名濱磐城座に於て開催

過帳帳簿整理の名を以て戸を閉ざし休業既に五週間餘以上宣言書朗讀の後決議事項今尙一屆の聲明書を出し項を朗讀決議し、早速演説得ず、暗中策動に其日を過る磐城水産新報社主幹カチを失た舟の如く、又一と意氣の言々句々に聴衆はつた。

望小名濱町民諸君

今や宇宙の進化は時代の進尚は當町の將來に於ける、運に伴へ、隆々たるの時我諸君と共になすべき責務益國三千年來未曾有の進展は々大ならんとす、而して吾世界の三大強國として誇る人は今や明治大帝の御聖旨に足る、是れ即ち櫻國男子に基き、同胞八千萬凡そ國の特性たる熱烈なる國民一政參與の權能を得、我帝國の奮闘努力の結果たりとの進運を謀るべき重大なる云ふべく、茲に太平洋東北任務を保有するに至れり、沿岸に於ける有数の港灣たる如此重大なる責任ある吾小名濱の開發漁業界の進人町民は千歳一遇なる、現展は以て、斯界の模範とす代に直面し如何なる方策を展に足ると雖然港灣の修築以て處せんとするか、須ら海陸産業の向上展開と謂へく舊來の陋習たる封建的時

水産と人物

野崎 貞行君
野崎武兵衛の名天下で、齡三十路に達せざるに於て、悲愴なる決心の本に、あの其間俊才のきこい高き亥之大屋臺骨の總大將として一太郎氏物故し、最近迄水産界の爲めに代表的人物たり君は資性濃厚生れ乍にして未だ春秋に富む身を天國に去る何たる悲哀事ぞ、

銘酒 清水正宗 釀造元

清水屋

小名濱(電話六)

代錯誤の弊風をして、根本より打破し以て各自の權能を自重し、町制刷新の道を講じ軍事貿易上焦眉の要望たる小名濱港灣修築を實現せしめ、名實共に町家展開の現象を致し、以て地方産業の實績を上げ、國民生活の安定を期し太平洋沿岸に於ける小名濱の名聲をして宇宙に知らしめ、國威を以て宇宙に發揚せしめ、以て國家をして泰山の安きに置き、昭和成長の意義ある大々的奮闘をなし櫻國男子の本能を發揚せられん事を切望す。

和洋銅鐵金物問屋

久釜屋商店

電話九三一九番

修養を忘れず、大事業家としての沈着味を有す。將に大小名濱を建設せんとする秋、春秋に富む、君の努力と、あやまらざる考慮の元に現組合長立花君と共に町百年の大計を粉骨の努力を拂はれん事を切望して筆を擱す。

祝發刊

- 泉村消防組頭 江尻博孝
- 磐城銀行頭取 三戸源太郎
- 實業家 齋藤昌孝
- 篤志家 水野德次郎
- 篤志家 野寬平
- 支配人 丹野寬平
- 緑屋 賀要平
- 内科 小兒科 (院長毎日診療) 院長 醫學博士 難波 陸
- 内科部長 栗野省三
- 外科 內臟外科、整形外科、レントゲン科 外科部長醫學士 氏家 憲介
- 醫學士 鈴木退輔
- 産婦人科 女子泌尿科 レントゲン深部治療。入院分娩室完備 産婦人科部長醫學士 五十嵐雄二
- 顧問 醫學博士 川添 正道
- 藥局 局長 吉本 孝平
- 本院 主事 賀澤 忠治
- 事務 長 鈴木 富雄

磐城共濟病院

電話六四一番